

東北海区沿岸水温予報(2007年)

海域	経過 (11~1月)	現況(1月下旬~2月上旬)	見通し (2~4月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	12月の津軽暖流の表面水温はやや低め、尻屋崎東方への張り出しはやや強め。 11月の対馬暖流の0,50m層最高水温はやや高め、北上流量及び勢力は平年並み。 12月の各層水温は平年並み、北上流量はやや少なめ、勢力はかなり弱め。 太平洋側の定地水温は11月以降平年並み、1月下旬はやや高め。	2月の対馬暖流の各層水温ははなはだ高め、北上流量はやや少なめ、勢力は平年並み。 太平洋側の定地水温は1月下旬以降はやや高め、かなり高め。	津軽暖流の尻屋崎東方への張り出しは「平年並み」に推移する。	日本海の大対馬暖流の勢力が12月から2月にかけて「かなり弱め」から「平年並み」に推移した。	太平洋側の白糠では11月中旬から12月上旬にかけてスルメイカが好漁。津軽海峡大畑では11月下旬から12月中旬に好漁がみられた。 12月下旬、大畑でエビスタイがタコ竈で漁獲された。
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水試発表)	11月 表面:尾崎沖合30~50海里付近で平年並~やや低め 100m深:黒崎沖合20海里付近でやや高め、トクヶ崎沖合20~50海里から椿島沖合30~50海里付近にかけてやや低め~低め 12月 表面:全域で平年並~3程度低め。 100m深:全域で平年並~6低め 1月 表面:県北部沖合50海里から県中部沖合20~50海里にかけてやや高めのほかは概ね平年並 100m深:県北部沖合40~50海里と、県中部沖合40~50海里でやや高め、県南部沖合40~50海里でやや高め~高め	表面 全域で概ね平年並~やや高め 100m深 全域で概ね平年並~高め	沿岸は津軽暖流に覆われ、全域で平年並。沖合は親潮第一分枝の南下が一部に見られる時期になることから、平年並~やや低めで推移する。	沿岸の津軽暖流水が20海里以内を広く覆っている。 親潮第一分枝は県中部沖合30~40海里付近まで南下しており、海洋観測により200mまで5以下となっていた。	2月中旬に岩手県中部沖合40海里付近で、0~200m深まで3以下、33.0PSUの沿岸親潮の一部と見られる水帯が観測された。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水試発表)	11月下旬には、表面水温は概ね12~15台で平年並または1~2低めであった。100m深水温については、雄勝沖合(38°30'N)ラインの142°50'Eの海域では4~11、そのほかの海域では概ね9~14台であった。平年との比較では、雄勝沖合ラインの142°50'E付近で2~8低め、そのほかの海域では平年並または1~3低めであった。 1月上旬には、表面水温は概ね10~13台で、平年並または1~4高めであった。100m深水温は、巨理沖合(38°N)ラインでは8~11台で概ね平年並であった。雄勝沖合ラインでは9~13台で平年並または1~3高めであった。	2月には、表面水温は、8~14台で平年並または1~4高めで、特に巨理沖合ラインで高めであった。また、100m深水温については、気仙沼沖合(39°N)ラインでは7~9台で平年並であった。また、雄勝沖合ラインでは、9~10台で、平年より1~2高めであった。巨理沖合ラインでは10~13台で平年より1~4高めであった。	雄勝沖合(38°30'N)ラインの142°E以東の海域並びに巨理沖合(38°N)ラインの142°Eから142°30'Eまでの海域では、3月から4月に平年より高めで推移する。 この他の海域では3月から4月にかけて平年並で推移する。 [黒潮系水の影響等により南部沖合海域を中心に水温が高めで推移する海域が多いと考えられる]	「沿岸定線データを用いた宮城県沿岸海域の海況予測モデル」によって海況予測を実施した。(2007年2月の類似年は1989年2月と1995年2月であった)	雄勝沖合(38°30'N)ラインから巨理沖合(38°N)ラインに暖水が波及し平年より高めの水温状況となっている。 マアナゴのレプトセファルスが1月末に採集された。
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	黒潮系暖水の波及が継続し、12月まで50海里内の平均水温は平年よりやや高めで推移した。平成19年1月も黒潮系暖水の勢力は強いままであったが、灘側では降温し、50海里内の平均では平年並み、30海里内平均では平年よりやや低めとなった。	黒潮系暖水の本県沖合への波及が継続し、本県南部海域沖合では平年より極めて高めの水温がみられる。親潮系冷水の目立った波及はみられない。	灘側では引き続き平年並みの水温で推移すると予測される。 沖合では、現況の親潮弱勢傾向は期間後半に向かうに従い解消してゆき、弱いものの断続的な冷水波及がみられると予測される。	統計的予測によると本県周辺海域の灘側の水温は期間を通して平年並みと予測された。 沖合での親潮系冷水の弱勢傾向は期間後半に向けて収まってゆくとみられた。	12月~1月のシラオウの漁獲量は過去5年比で32.7%と不漁であった。
常磐南部 ~鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試発表)	11月は黒潮系暖水が鹿島灘を中心に南部から波及した。表層水温は18~25で、常磐南部および鹿島灘で「平年並み」~「極めて高い」となった。また100m深水温は15~19で常磐南部で「平年並み」~「高い」、鹿島灘で「平年並み」~「極めて高い」となった。 12月は黒潮系暖水が沿岸域を広く覆った。表面水温は16~22で、常磐南部で「やや低い」~「極めて高い」となった。また100m深水温は14~20で、「平年並み」~「極めて高い」となった。 1月はごく沿岸域に南下流が卓越し、下旬には断続的に暖水舌が形成された。また水深150m程度まで鉛直混合した。表面水温は11~14で北部海域で「平年並み」~「やや低い」、南部海域で「平年並み」~「極めて低い」となった。また100m深水温は「平年並み」~「極めて低い」となった。	1月下旬に遠州灘で離岸していた黒潮は、2月上旬にかけて小規模な蛇行に変化するとともに東進している。本県のごく沿岸域には南下流により、北方の混合水が流入し、その沖には暖水舌が断続的に形成されるとともに、暖水塊が存在し、暖水を沿岸域に波及させている。 表面水温は10~17で「平年並み」~「極めて高い」となった。また100m深水温は11~15で中北部海域と沿岸寄り「平年並み」~「やや高い」、南部沖合で「極めて低い」となった。	水温は沿岸域については下降傾向で推移するが、その他の海域では概ね現状のまま推移すると推測される。 平年偏差は親潮水が南下した場合に低くなるが、期を通じて概ね「やや低い」~「高い」で推移すると推測される。	2月上旬現在、親潮第一分枝の先端位置が、平年に比べてかなり北方に位置している。また、沿岸域には暖水舌が、その沖合には暖水塊があり、それらから沿岸部に暖水を波及させている。現在のと、冷水系の魚(マダラ等)に混じって漁獲されている。また、漁業者によれば、例年に比べて漁獲量が少ないとのこと。	マサバは例年は房総以南の産卵海域に下がるが、2月上旬現在、常磐沖で多獲されている。 2月上旬現在、この時期にはマサバ、ホウボウ、タチウオ等が、マダラ等に混じって漁獲されている。また、漁業者によれば、例年に比べて漁獲量が少ないとのこと。

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部	三陸南部	常磐北部	常磐南部~鹿島灘
-----------	------	------	------	------	----------

		距岸 10 海里内	距岸 10 ~ 70 海里			
極めて高い (2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い (7.5%)	+1.6 ~ +2.3	+2.5 ~ +3.9	4.0 ~ +5.9	+1.6 ~ +2.3	+2.5 ~ +3.9	+2.5 ~ +3.9
やや高い (20%)	+0.7 ~ +1.5	+1.0 ~ +2.4	1.5 ~ +3.9	+0.7 ~ +1.5	+1.0 ~ +2.4	+1.0 ~ +2.4
平年並み (40%)	+0.6 ~ -0.6	+0.9 ~ -0.9	1.4 ~ -1.4	+0.6 ~ -0.6	+0.9 ~ -0.9	+0.9 ~ -0.9
やや低い (20%)	-0.7 ~ -1.5	-1.0 ~ -2.4	1.5 ~ -3.9	-0.7 ~ -1.5	-1.0 ~ -2.4	-1.0 ~ -2.4
低い (7.5%)	-1.6 ~ -2.3	-2.5 ~ -3.9	4.0 ~ -5.9	-1.6 ~ -2.3	-2.5 ~ -3.9	-2.5 ~ -3.9
極めて低い (2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~